

「高齢者・障がい者向けのバリアフリーの環境について in 海王丸パーク」

指導教員：講師 中田 智子

担当学生：長澤、長森、ナンダーアウン、西口、ニンイルイン、野、ノー

I 目的

高齢者や障害者などが生活していくうえで身体的、心理的、社会的の障壁（バリア）となるものを除去（フリー）して快適で過ごしやすい環境にするためである。

II 方法

10月15日に高齢者と障害者がバリアになりうるものについての観察項目をつくり、10月22日に海王丸パークへ行き、施設の管理員の話聞いた。また、チェックリストをもとに見学した。高齢者のバリアフリーのチェックリストには、階段やトイレに手すりがついているか、段差があるか、段差が車いすの方が順調に乗り越えられるか、エレベーターがあるか、車いす専用の通路があるか、AEDがあるか、休憩場所（ベンチ）がどのくらいあるか、施設内観光者があるかをチェックした。段差が乗り越えられるかについては車いすに乗り、負担なく超えられるかを体験した。また、車いす専用の通路（スロープ）でも、車いすに乗り、スロープが急すぎないかを体験した。

障害者のバリアフリーのチェックリストでは、視力低下の障害者の場合には、点字ブロックがあるか、トイレのボタンが点字かどうかを施設内のトイレに入ってチェックした。足に障害がある場合にはスロープがあるか、トイレは車いすの方に適しているか、船に安全に入れるかをチェックした。高齢者や障害者の共通点では、気分転換のため景色がどうなっているか、ドアが重すぎないか、ドアが急に閉まらないか、車いす専用駐車スペースがあるか、ドアがハンドルタイプではないかをチェックした。また、海王丸パークの新型コロナウイルス感染症に対してどのように対策をしているかについて話をきいた。

III. 結果

海王丸パークは、富山県射水市海王町の公園で、1989年（平成元年）9月に退役した航海練習船海王丸の係留・展示施設として、1992年（平成4年）7月5日にオープンした。純白の帆船を中心に広がる海王丸パークは、人びとが集い、学び、憩う、素敵なベイエリアである。海王丸パークには、帆船 海王丸、日本海交流センター、海王バードパーク、イベント広場、緑のパーゴラ、ふれあい広場、ピクニック広場、展望広場があった。帆船 海王丸は、

商船学校の練習船として誕生した帆船である。日本海交流センターは、海洋文化への理解と知識を深める施設で、世界の帆船の模型をはじめとする海、港、船に関する展示など、海の情報発信基地として親しまれている。海王バードパークは、野鳥とのふれあいの場を提供するために造成された臨海部に位置する野鳥園である。イベント広場は、潮風と青空に囲まれて、貝殻を彩った広さ約 18,200 m²のイベント広場である。緑のパーゴラは、県内の観光情報を紹介するタッチパネルや、海王丸の眺めが楽しめるカウンターもあり、広場の向こうに海王丸を仰ぎ歩けば、波音のロマンが聞こえてくる場所である。ふれあい広場は、大型遊具「波のハンモック」をはじめとした各種遊具が充実している場所である。ピクニック広場は、緑いっぱいの広々スペースである。展望広場は、富山湾、立山連峰、新湊大橋、海王丸が一望できる場所である。

チェックリストからは、海王丸パーク内では、設置してあるトイレにはすべて多目的トイレが設置してあった。帆船海王丸は乗船口及び下船口がスロープになっているが、スロープが急すぎるので、車椅子の乗船者の方には警備員が個別に誘導している。そのため、最上甲板は誰でも見学できる。展望広場にもスロープが設置されている。日本海交流センターでは、出入口にスロープを設置している。また、車椅子の貸し出しを行っている。日本海交流センターの中には、授乳室もあった。海王バードパークは、出入口にスロープを設置していて、館内には多目的トイレを設置している。

海王丸パーク内の階段とトイレには手すりがついていた。また、スロープや車椅子専用駐車スペースがあった。日本海交流センター内には AED があるが、パーク内で、人が倒れた時は誰かが日本海交流センターに助けを求めたら、スタッフが救急車を呼ぶなどの対応を行う。障害者に対してのバリアフリーでは、トイレのボタンに点字があったが、点字ブロックはなかった。トイレのドアは、スライド式だったが、高齢者や車椅子の方が一人で開けるには、重かった。来園者のための休憩場所（ベンチ）は 36 個あり、パーク内の景色は新鮮な空気、広い海があり、気分転換ができる場所だと思った。

見学して分かったことは、パークは広くて、数多くの方が楽しめる場所だと思った。帆船海王丸に乗らなくても、帆船海王丸の外見が美しく、新鮮な空気を感じることができた。帆船海王丸の中には、機械の音が大きいけれど、前部航海船橋、タイムベル、舵輪、士官サロン、バウスプリット、訓練生宿泊室、マスト頂上体験、愛むすび部屋、船長公室などを観察することができた。帆船海王丸の中には手すりがあり、高齢者も楽しめると思ったが、一部の場所には、通路もせまく、少し暗いところもあったので、転落の危険性があると思った。また、車椅子専用通路がなかったので、車椅子の方は船の中に入れないが、船上は見学できる。以上から海王丸パーク内の船は 90 年前からの物なので、バリアフリー対応にはなっていないが、パーク内はほとんどがバリアフリーになっていた。

IV. 考察

良い点では、展望広場に点字ブロックやスロープがあったことである。また、横幅の広い階段の中央に手すりがあり、高齢者の歩行訓練としても利用できると考えた。ふれあい広場

の遊具は月一回従業員が、年一回専門業者が点検している。コロナ対策としては、手すりを定期的に消毒したり、注意事項に沿って対策しているので安心してこられる。海王丸パーク内の多目的トイレの手すりは180度から90度に動かすことができるもので、介助者の邪魔にならないようになっている。船内には幸せのベルや幸せの愛カギをつけることができるパワースポットがあるのでどの世代でも楽しめる場所であると思った。

しかし、帆船海王丸に乗るためのスロープがあり、高齢者や障害者も乗ることができるが、スロープが急すぎるため、スロープの長さを長くし、角度を下げて緩やかにすると車椅子の方が安全に來られると思う。イベント広場の地面には、ブロックが飛び出している部分があり、転倒する可能性があるためケガにつながると思ったため、新しいブロックにつけかえるか、けずるかして平らにした方が良いと思った。緑のパーゴラにエレベーターが無く、高齢者や障害者、車椅子を利用している人がのぼることができないため、つけた方が良いと思った。

V. まとめ

海王丸パーク内はバリアフリーが整っている場所と整っていない場所では差があった。帆船海王丸は90年前のものであるため、バリアフリーにすることは難しいので、帆船海王丸以外の場所を改善したらいいと思った。ふれあい広場には幼児用の遊具しかないので、高齢者や障害者も楽しめるパークゴルフ場を作ると、どの世代でも楽しめて、気分転換できる場所になると考えた。